EUR / JPY　ユーロ円　月次レポート

前月振り返りと2026年11月の相場展望

発行日	対象期間	通貨ペア	発行頻度
November 5, 2026	10月実績 ／ 11月展望	EUR / JPY	Monthly

10月末レート（終値）

175.910

-1.36%　（10月月間騰落率）

10月高値	10月安値
179.308	175.069
ECB金利	**BOJ金利**
2.50%	1.25%

今月のハイライト

- 10月は**178.33円でスタートし、175.91円で引け、月間-1.36%**となった。月中は175.07～179.31円のレンジで推移した
- **ECBは10/28-29の理事会で3つの主要政策金利を据え置き**（預金ファシリティ金利2.50%）。同日、ラガルド総裁が2027年2月に退任することが発表された
- **日銀は10/29-30に政策金利を1.25%で据え置き**（賛成8対反対1）。展望レポートでは基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示された
- 計算上の欧日金利差（ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%）は1.25ppと前月と同水準。ECB・日銀ともに据え置きとなる中、ユーロは対円で軟調に推移した

11月 基本シナリオ レンジ

172 – 180円

11月はECB・日銀とも会合予定なし（次回はECB 12/16-17、日銀12/17-18）

欧日政策金利差

1.25pp

ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%＝計算上の単純比較で1.25pp。前月と同水準

For Information Purposes Only

EUR / JPY

2026年10月　相場振り返り

10月末レート
175.910
▼ -1.36%

始値	高値	安値	月間騰落
178.332	**179.308**	**175.069**	**-1.36%**
10月最初の取引日	月中最高値	月中最安値	-2.422円

10月の相場動向

10月のユーロ円は**178.33円でスタート**し、月中は**175.07〜179.31円**のレンジで推移した。ECBは10/28-29の理事会で3つの主要政策金利をいずれも据え置き、9月の利上げ後の影響を見極める形となった。同日には、ラガルド総裁が2027年2月7日に退任することが発表された。

日銀も10/29-30の会合で政策金利を1.25%で据え置いた（賛成8対反対1）。展望レポートでは基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示され、植田総裁は12月会合での利上げの可能性を排除しなかったと報じられた。計算上の欧日金利差（ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%）は1.25ppと前月と同水準で、ユーロ円は**175.91円で引け、月間-1.36%**となった。

主要イベントの影響

EU ECB 10月28〜29日 据え置き

- **ECBの3つの主要政策金利（預金ファシリティ2.50%・主要リファイ2.65%・限界貸出2.90%）をいずれも据え置き**
- 9月の利上げ後の影響を見極める形となった。ECBは同日、ラガルド総裁が2027年2月7日に退任すると発表した（任期満了は2027年10月の予定だった）
- 一部の市場参加者の間では、12月会合（12/16-17）での追加利上げを見込む見方もある

JP 日銀 10月29〜30日 据え置き

- **政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.25%で据え置き**（賛成8対反対1）。1名の委員は1.50%への利上げを提案したが否決された
- 展望レポートでは、基調的な物価上昇率が2%の物価安定の目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示され、2027年度の物価見通しが上方修正された
- 植田総裁は会見で12月会合での利上げの可能性を排除しなかったと報じられた。次回会合は12/17-18

10月の総括

10月はECB・日銀がともに政策金利を据え置いた。計算上の欧日金利差は1.25ppと前月と同水準にとどまる中、ユーロ円は月間-1.36%と下落した。日銀が基調物価の2%到達を判断し12月の利上げ観測が意識される一方、ECBでは総裁の退任発表もあり、今後の政策運営を見極める局面となっている。12月の両中銀会合に向けた観測の変化が方向性を見極める材料となりうる。

EUR / JPY

2026年11月　相場展望

10月末終値
175.910
10月末時点

11月の注目ポイント

11月は**ECB・日銀ともに金融政策会合が予定されていない**（次回はECBが12/16-17、日銀が12/17-18）。ユーロ円は、ドル円主導の円相場とユーロ圏のインフレ・景気指標の影響を受けやすいとみられる。一部の市場参加者の間ではECB・日銀ともに12月の追加利上げを見込む見方があり、両中銀の観測の強弱が方向性を見極める材料となりうる。ECB総裁の後任人事を巡る報道にも留意したい。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	ECBの12月利上げ観測が強まり、ユーロが買い戻される	177 – 182円
基本	50%	ECB・日銀とも会合がなく、指標にらみのレンジ推移	172 – 180円
弱気	25%	日銀の12月利上げ観測の強まりや欧州景気の下振れでユーロ円下落	168 – 174円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の12月利上げ観測の強まり	中	円高	追加利上げ観測が強まれば、他の条件が一定であれば円買い要因となりうる
ECBの12月利上げ観測	中	ユーロ高	エネルギー高を背景にインフレが高止まりすれば、ECBの追加利上げ観測がユーロを支える可能性
ECB総裁の後任人事を巡る不透明感	中	両方向	後任候補の政策スタンスを巡る報道がユーロの変動要因となる可能性
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの引き締め余地が後退し、ユーロ売りにつながりやすい

11月の見通し

基本シナリオは**172〜180円のレンジ**とみている。計算上の欧日金利差（ECB預金金利2.50%－BOJ1.25%）は1.25ppと相対的に小さく、双方向の動きとなる可能性がある。11月は両中銀とも会合がなく、12月会合に向けた利上げ観測の強弱と欧州のインフレ・景気指標が主な材料となりそうだ。

用語解説

ECB（欧州中央銀行）
ユーロ圏21カ国の中央銀行。10/28-29理事会で3つの主要政策金利を据え置き（預金ファシリティ金利2.50%）。次回は12/16-17。

日銀（BOJ）
日本銀行の略称。10/29-30会合で政策金利を1.25%で据え置き（賛成8対反対1）。次回は12/17-18。

展望レポート
日銀が年4回公表する「経済・物価情勢の展望」。10月版では基調的な物価上昇率が2%目標とおおむね整合的な水準にあるとの判断が示された。

クロス円
米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。ユーロ円はドル円とユーロドルの動きに影響を受けやすい。

政策金利 / 金利差
中央銀行が設定する基準金利。ECB預金金利2.50%とBOJ1.25%の差は計算上の単純比較で1.25pp（為替の方向を保証するものではない）。

HICP
ユーロ圏の消費者物価指数。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。ユーロスタット（Eurostat）が発表する速報値・確報値があり、数値は改定されることがある。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようにお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。